

艦呑ミ
「ふ」

成人向

私は今休日を使って
鎮守府の裏山に森林浴
に来ています

…お腹…
痛い…

今朝食べたものが
悪かったのかしら…

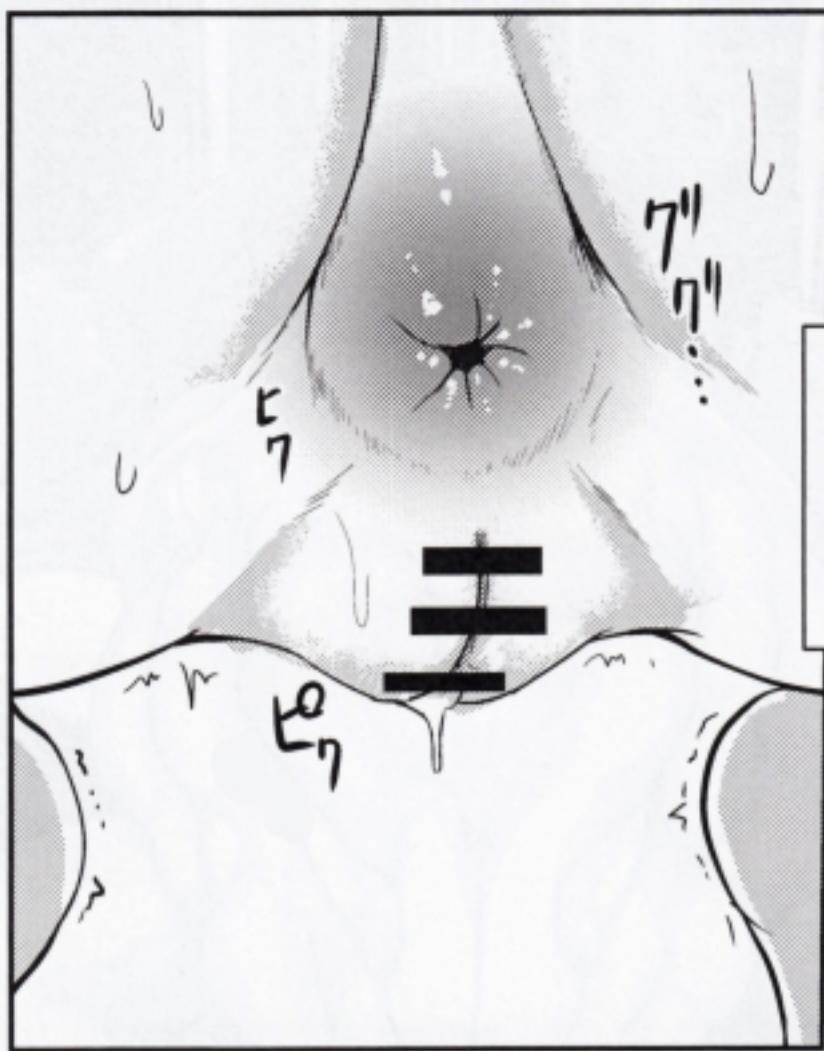
折角の休日
なのに台無し
です…

ですがちょっと
窮地に立たされて
います…

しかし急げば
まだ間に合う
はず…

大丈夫…
心配いらないわ
…私





もう限界……!



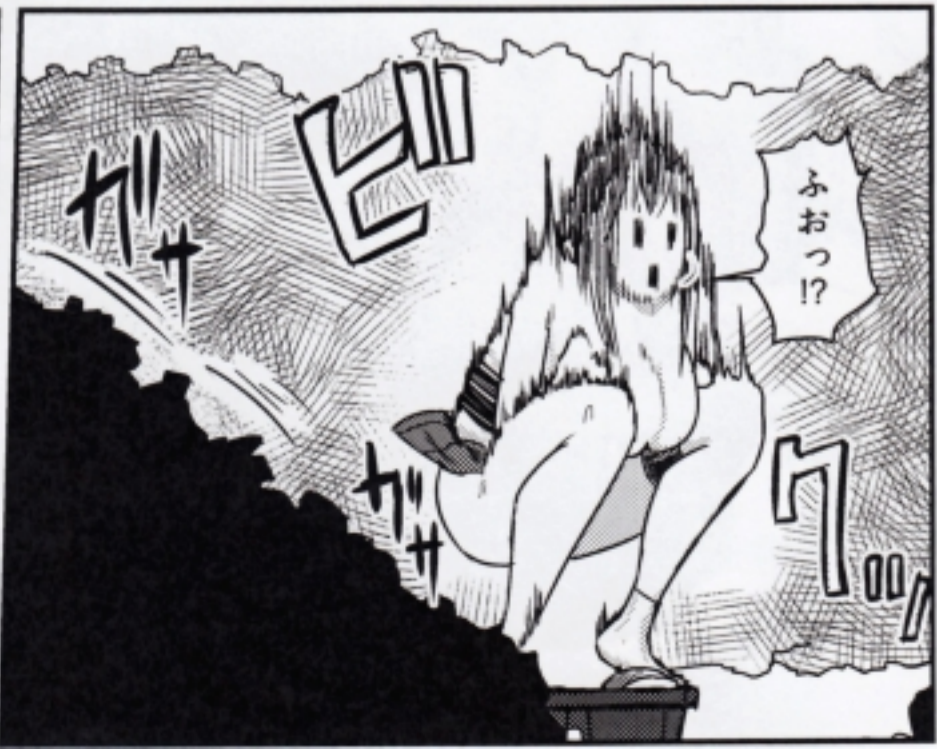
誰もいないし……



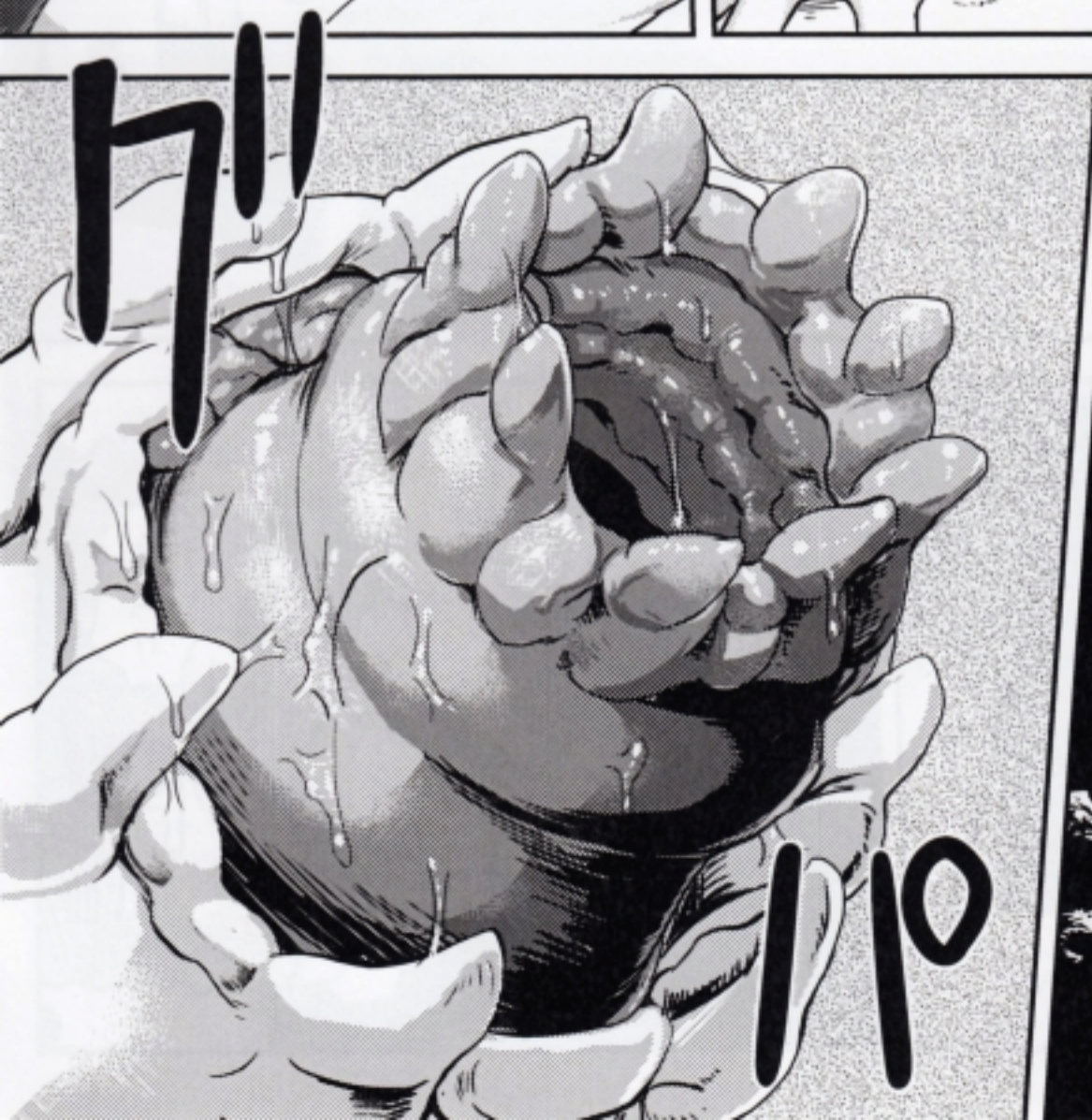
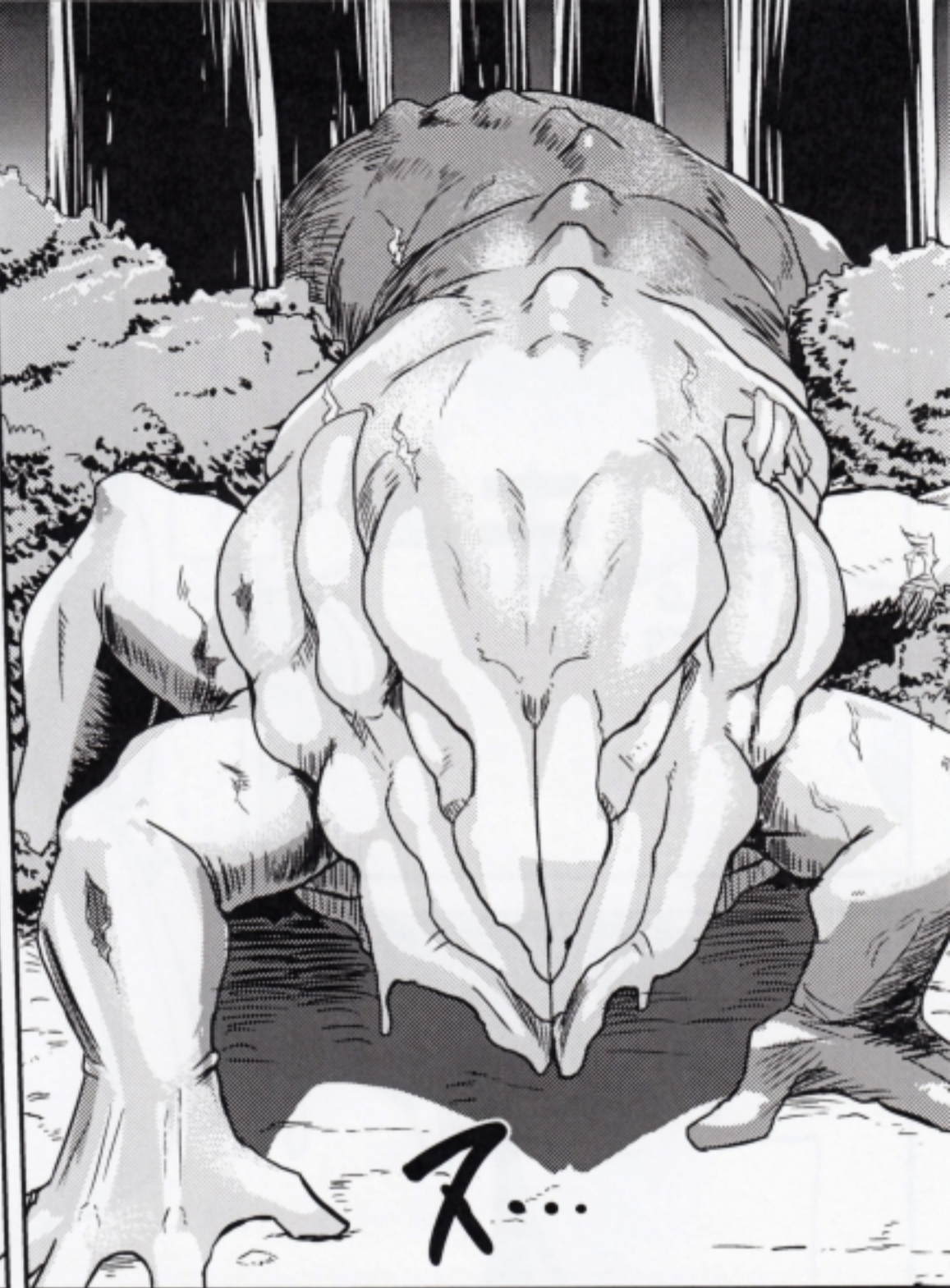
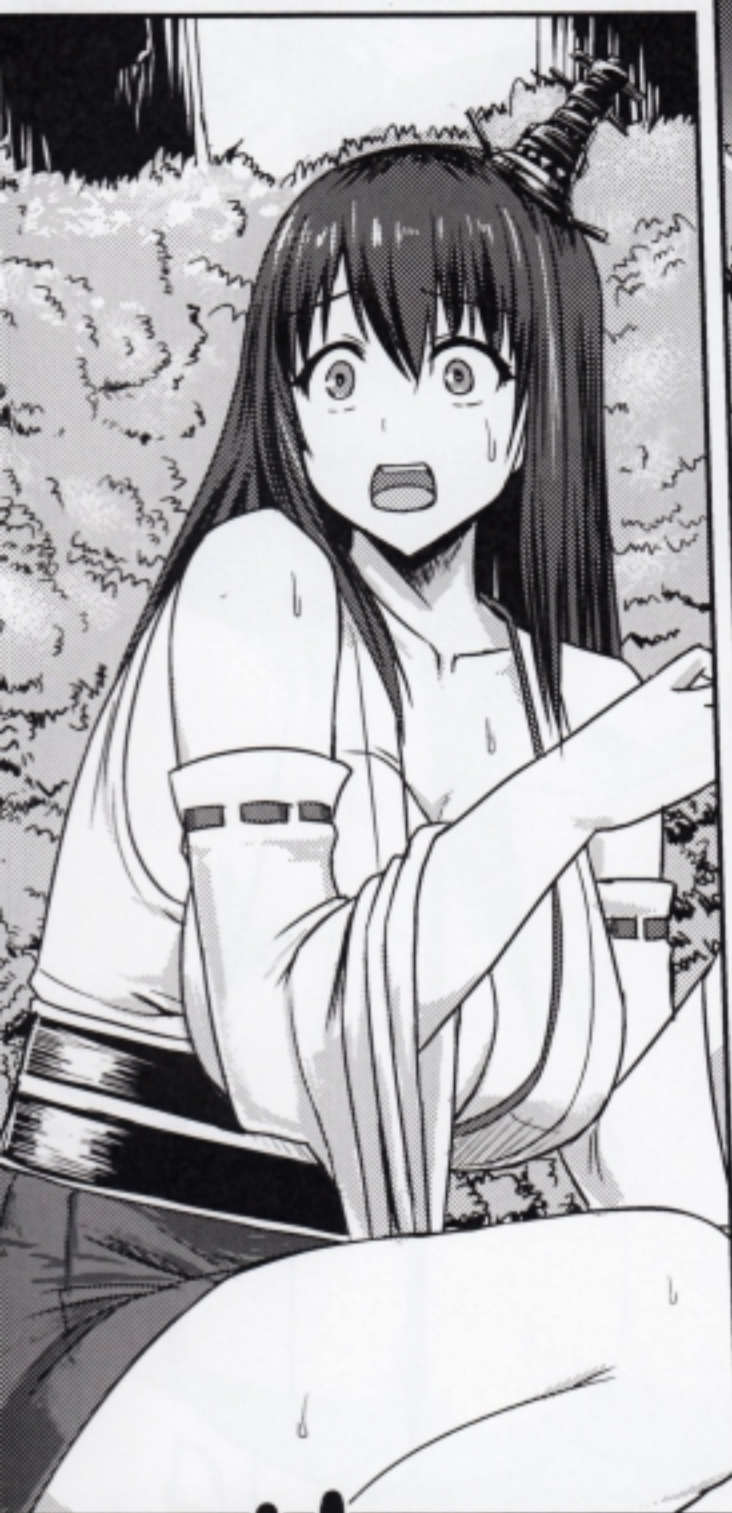
んふう……



だ誰……!?



ふおっ!?





まさか…私を
食べるつもり!?

ズ
ツ
ツ

ズ
ツ
ツ



こんなのに
食べられるなんて
嫌……! 誰か……

ジュ
ジュ

ズ
ツ
ツ

グ
ム

グ
ム

ジュ
ジュ

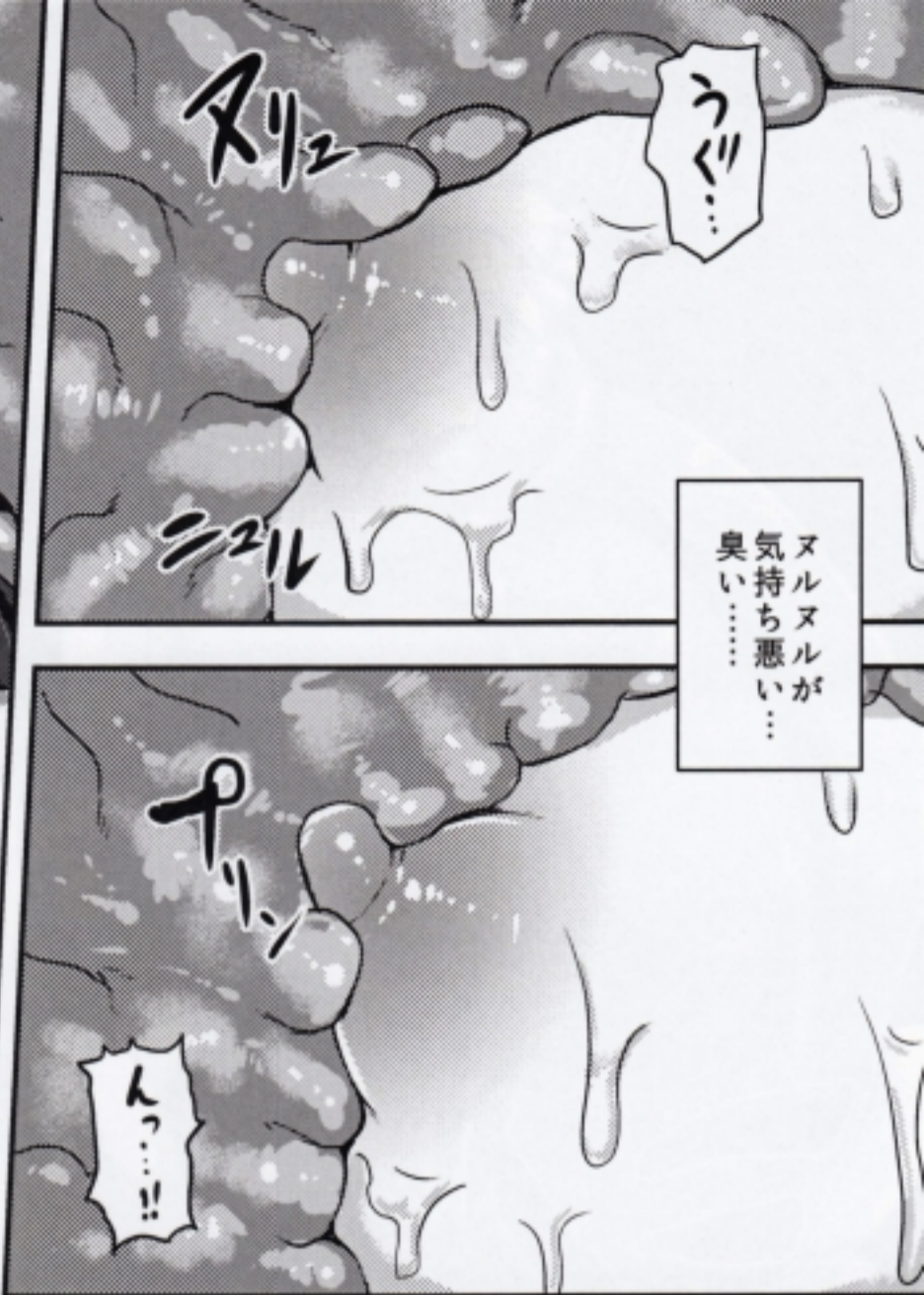


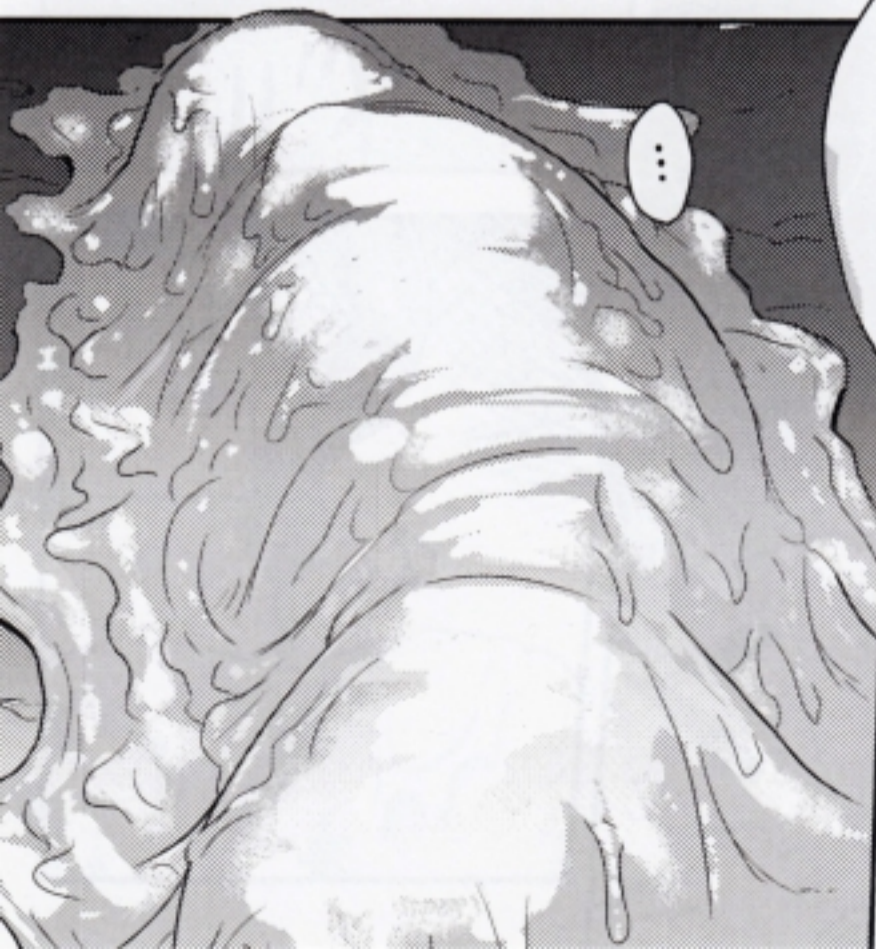
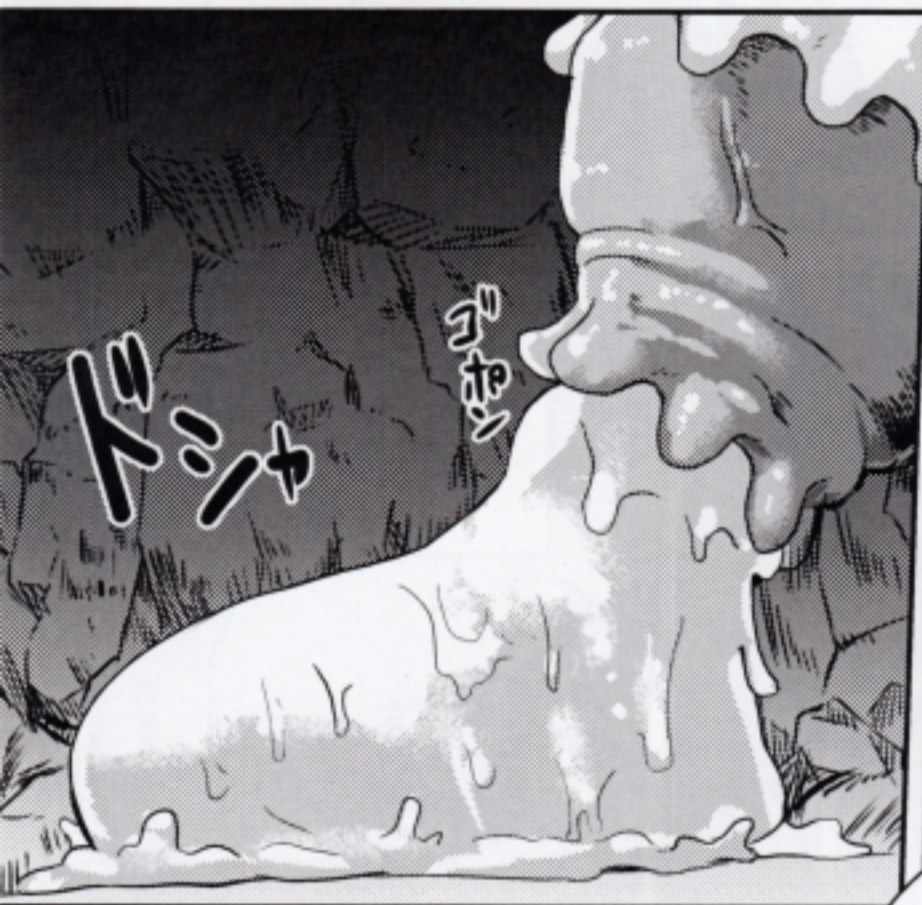
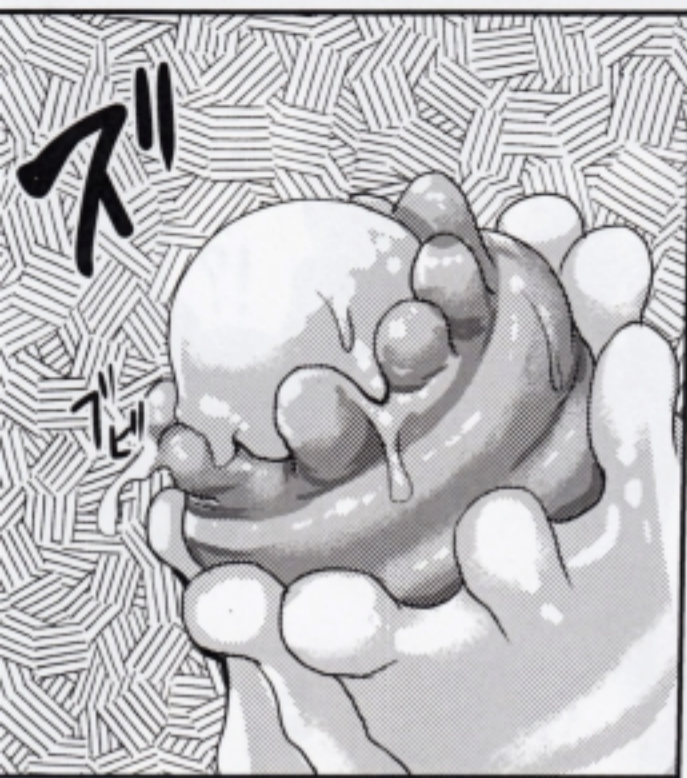


助けて...
提督...!!

動けない...

そんな...うそ...
吞まれちゃった...







ここは…?
外…??

…!!

でも…身体が
思うように
動かせない…!

生きてる…!?
無事…!?

…!!

ド
ド

ド
ド



…!!

ズ
ズ
ズ



体中に
付いてる
この粘液の
せいだ…!

ズル

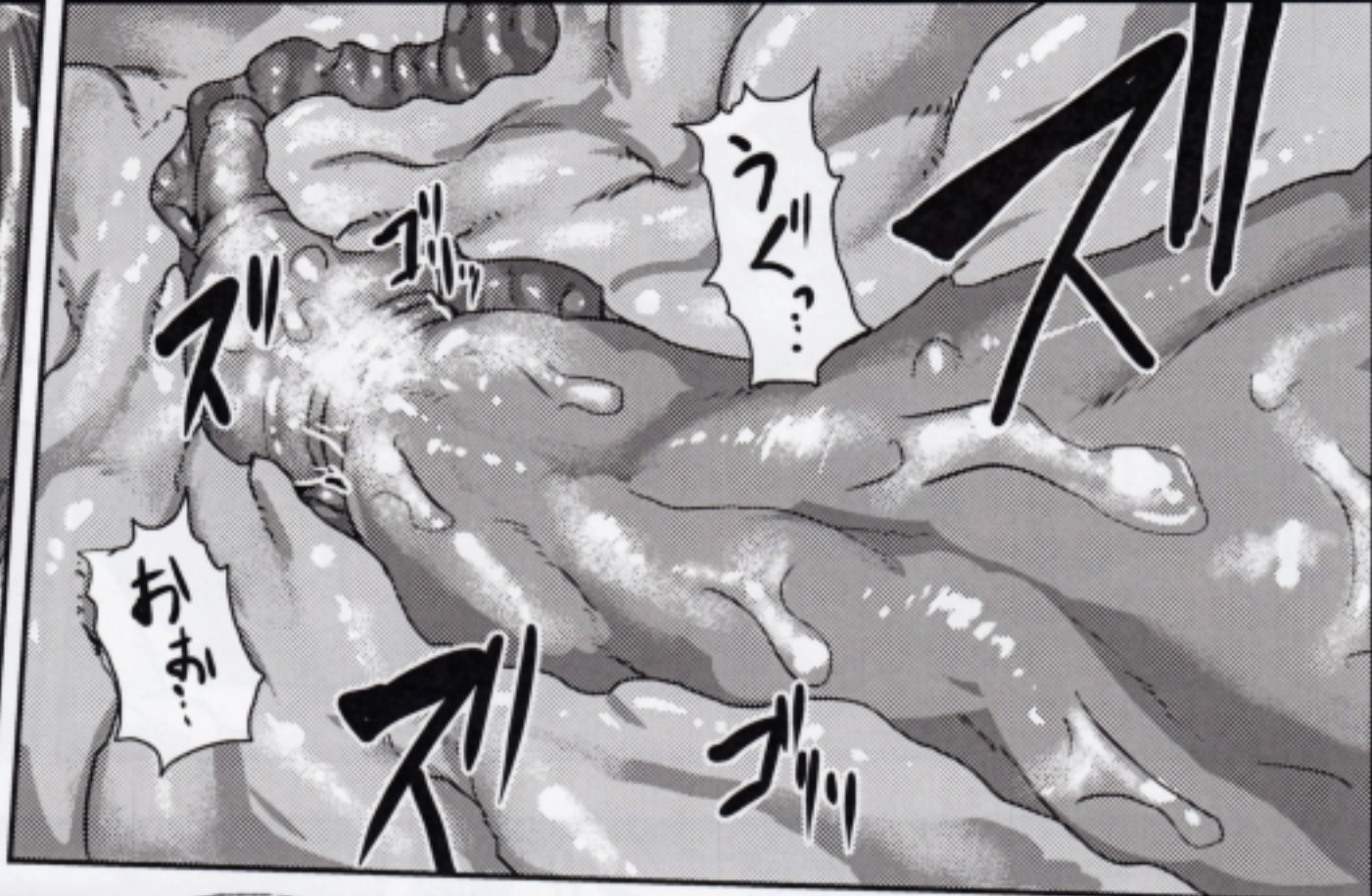


はやく…
なんとか
しないと…

ズ



あが...あ...



ズ

グ

ズ

ズ

おあ...

ズ

グ



あ...

ズ

ズ

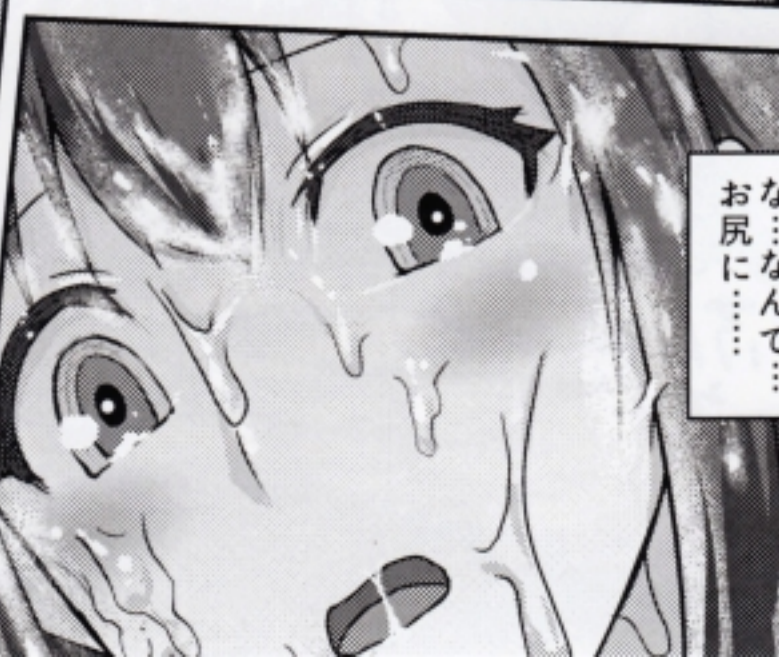
ズ

ズズズ

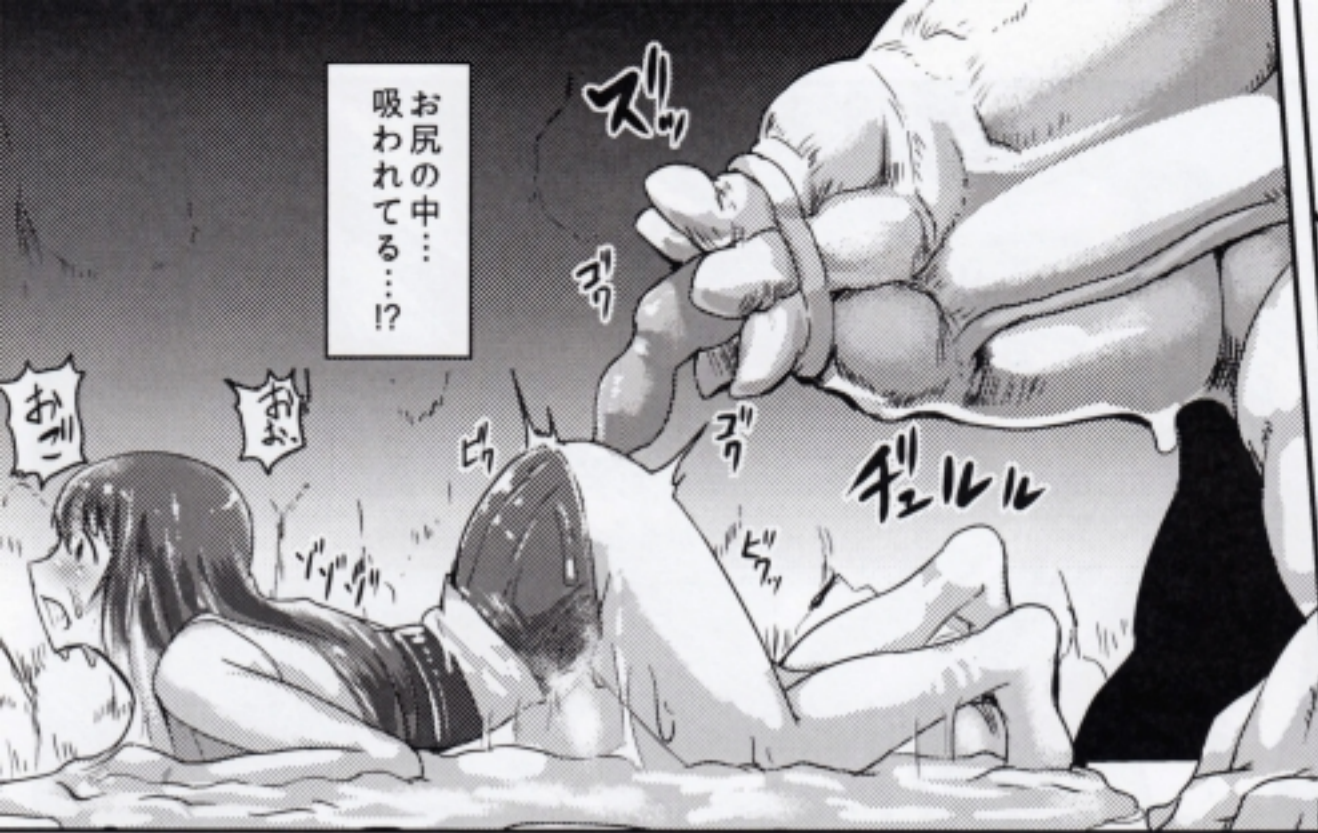


ズ

ズ



な...なんで...
お尻に...

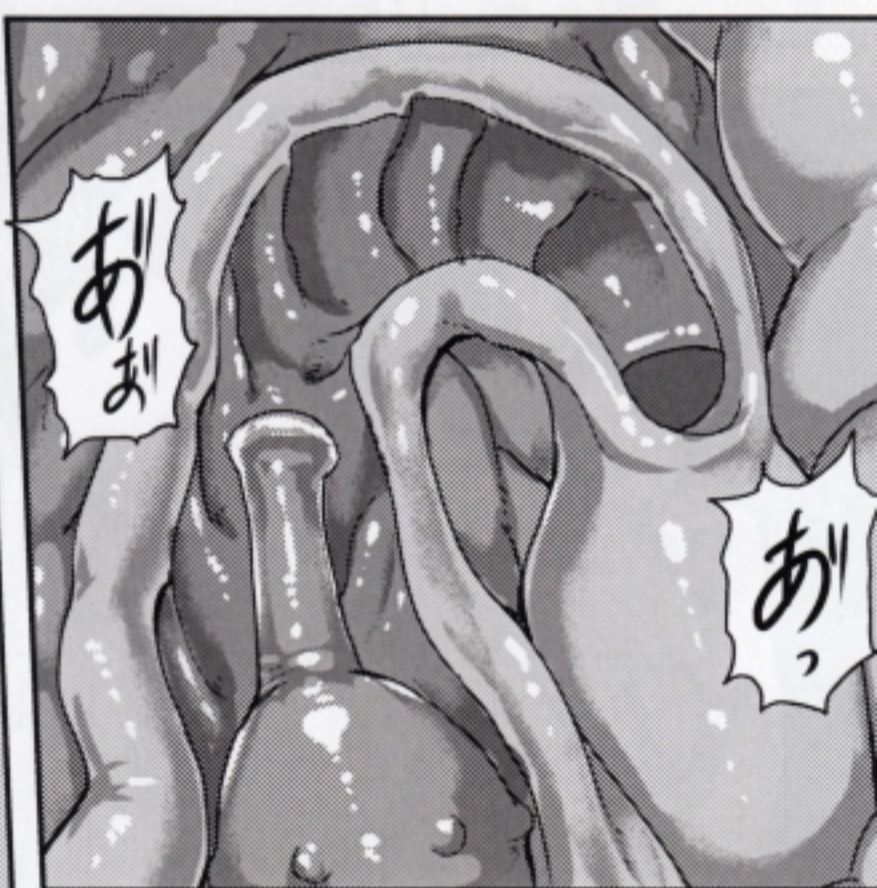


お尻の中…
吸われてる…!?



どんどん
吸われてく…

どうしてこんな…



いやあ…!
どんどん
奥に…!?



!?...そんな...
嘘でしょ...!?

私...
こんなので...

あぁ!!
あぁ!!
あぁ!!

クワッ
クワッ
クワッ

ビッ

クワッ
クワッ

クワッ

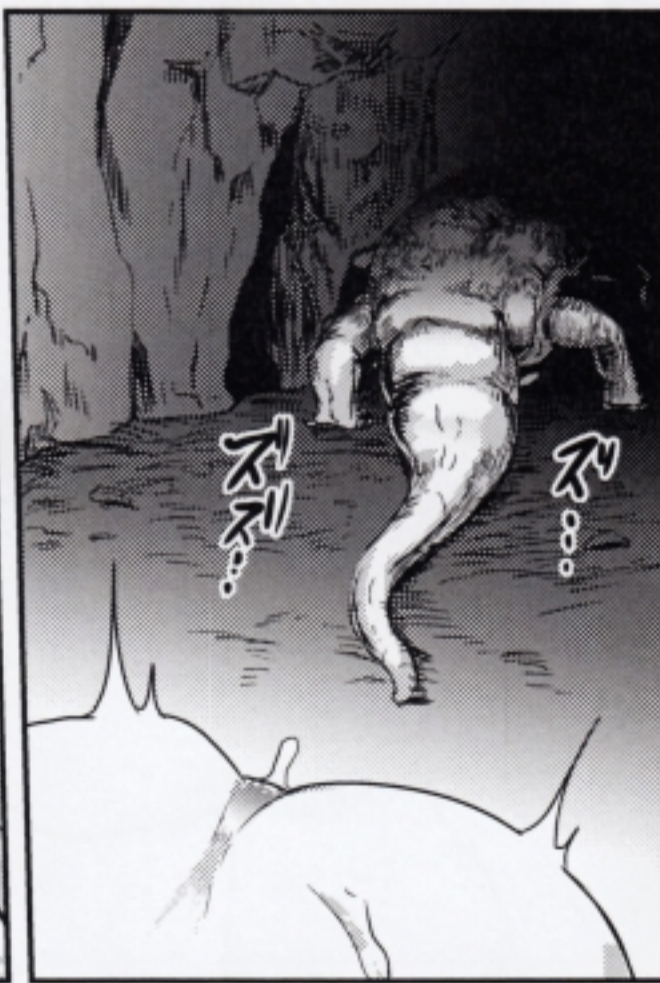
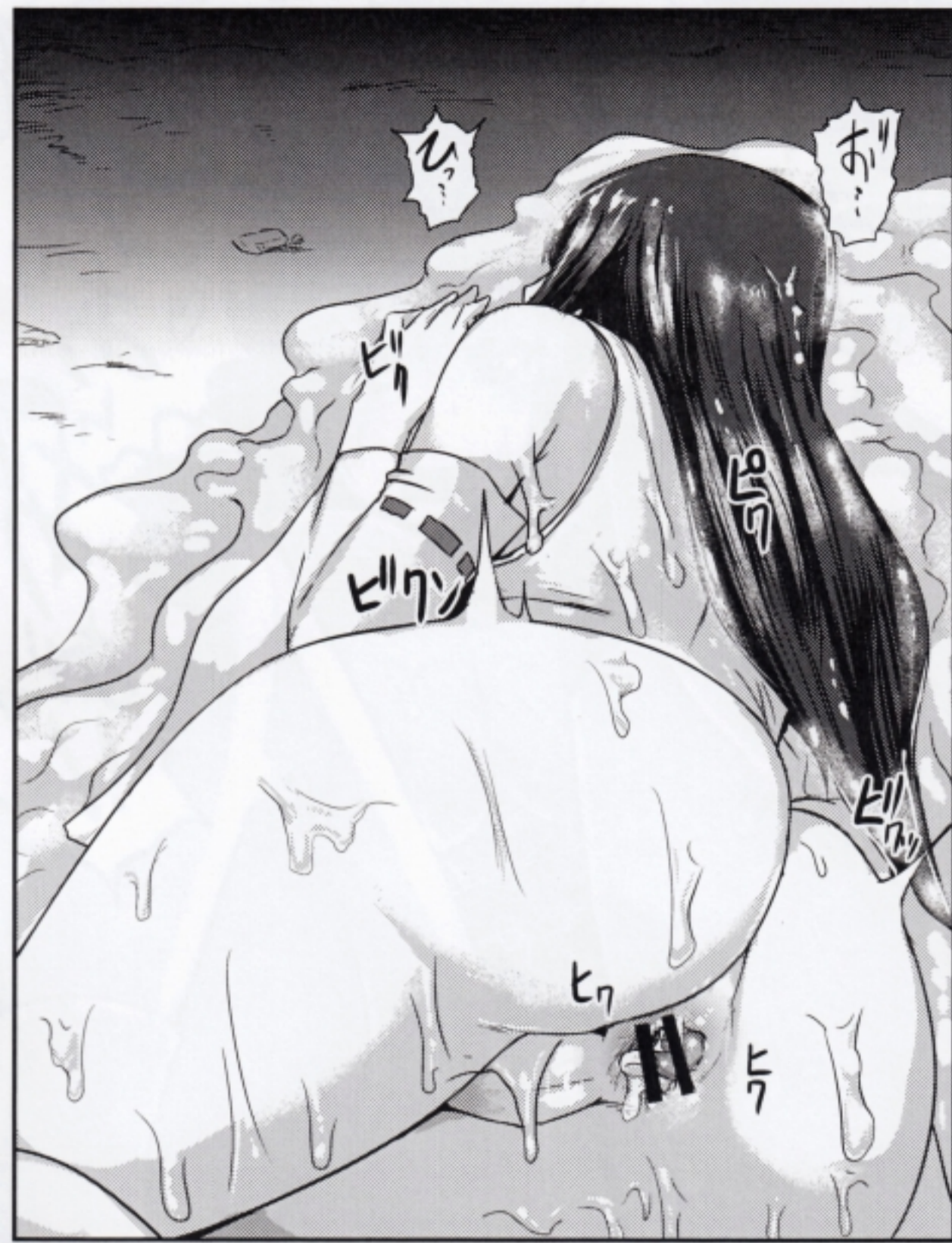
♡

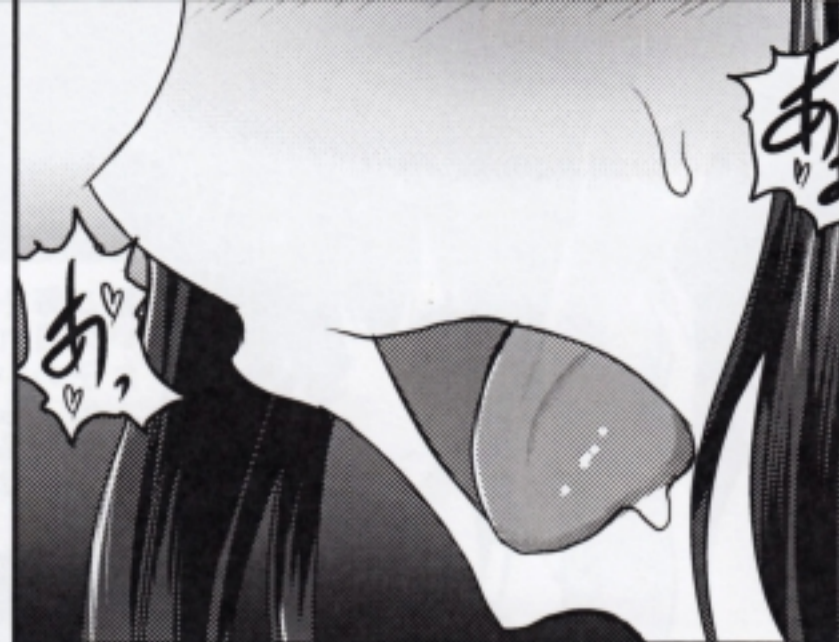
♡

♡

♡
♡
♡

クワッ
クワッ





あゝあゝ

あゝ

幸いあの怪物は私の中のモノを全て貪り尽くすと興味を無くし姿を消した……

その後私はなんとか鎮守府に帰ることができた……



こんな玩具じゃ足りない……



私の心と身体に深いキズを残して

おゝおゝ
おゝおゝ
おゝおゝ



もう一度……あれが欲しい……

それから私は
毎日のように
この子のもとに
赴いた……

この子も私の事を
認識したのか
時間になると
樂の前で待って
くれるようになった

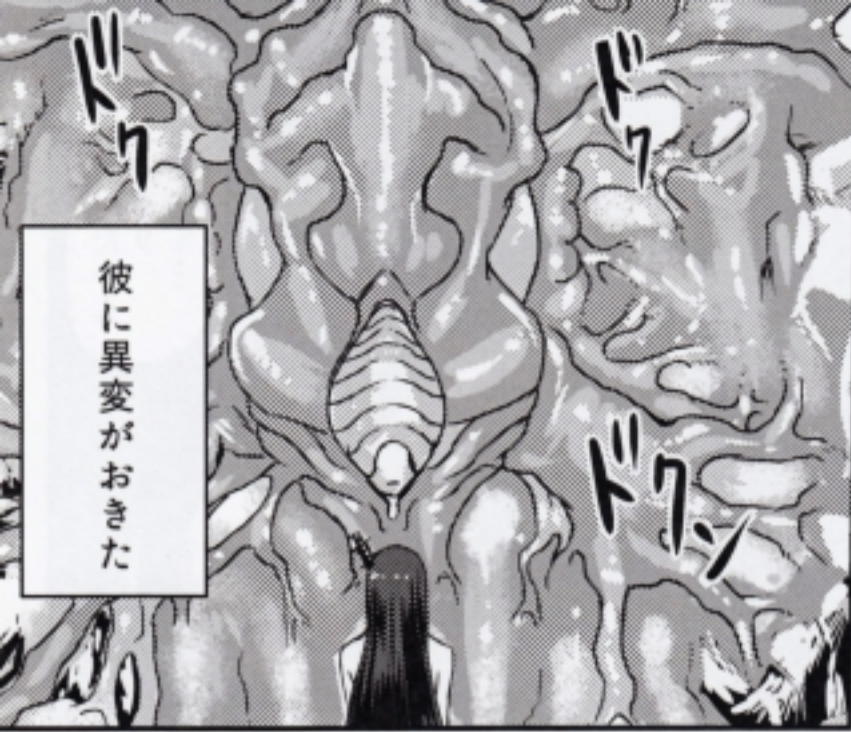
少し遅れて
行ったりすると
怒った様に私の中を
貪りつくした

口からキスを
するかの様に
食事をするこども
あった……

幸せだ

私は彼の
お弁当箱に
なることを
決めた……





彼に異変がおきた

ドクン

ドクン

ドクン



そんなある日のことだった…



どうしたんですか!?
いいったい何が…!?



どうしたんですか
この格好……!

もう……
ビツクリ
しましたよ……!

急にだったから私ビツクリしちゃって…

でも元気そうですよかったです…

キョロ

ハキ

あそーだ！今日はあなたにプレゼントがあるんです

いつも残さず食べてくれるご褒美に…

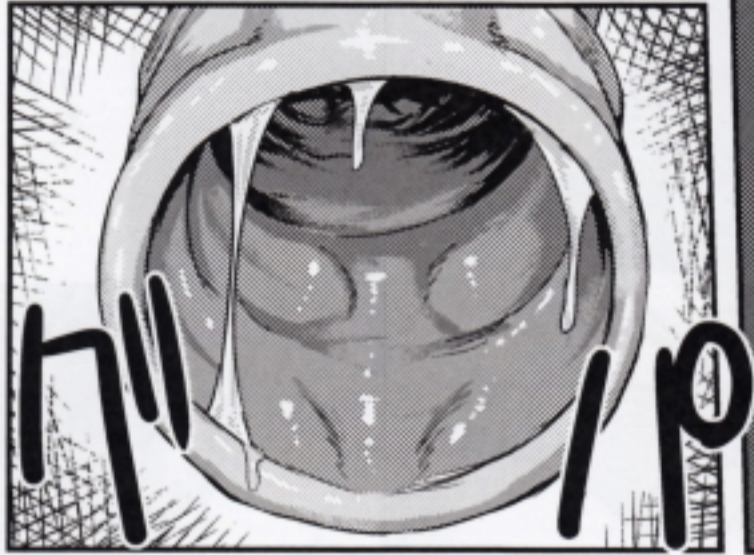
私が作った栄養満点の特製ジュースを入れてきたんですよ♡

フッ♡

ゴホ

ゴホゴホ

ゴホ

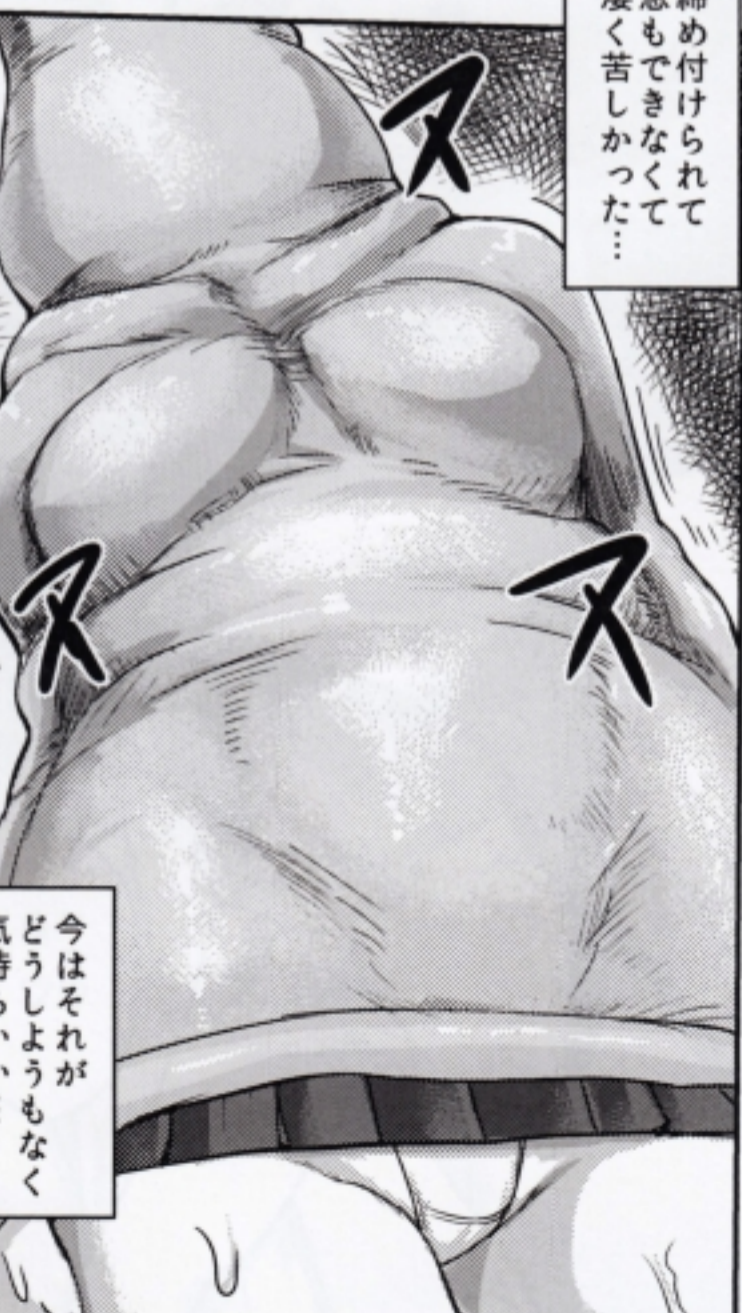




これをされると
出会ったころを
思い出します…



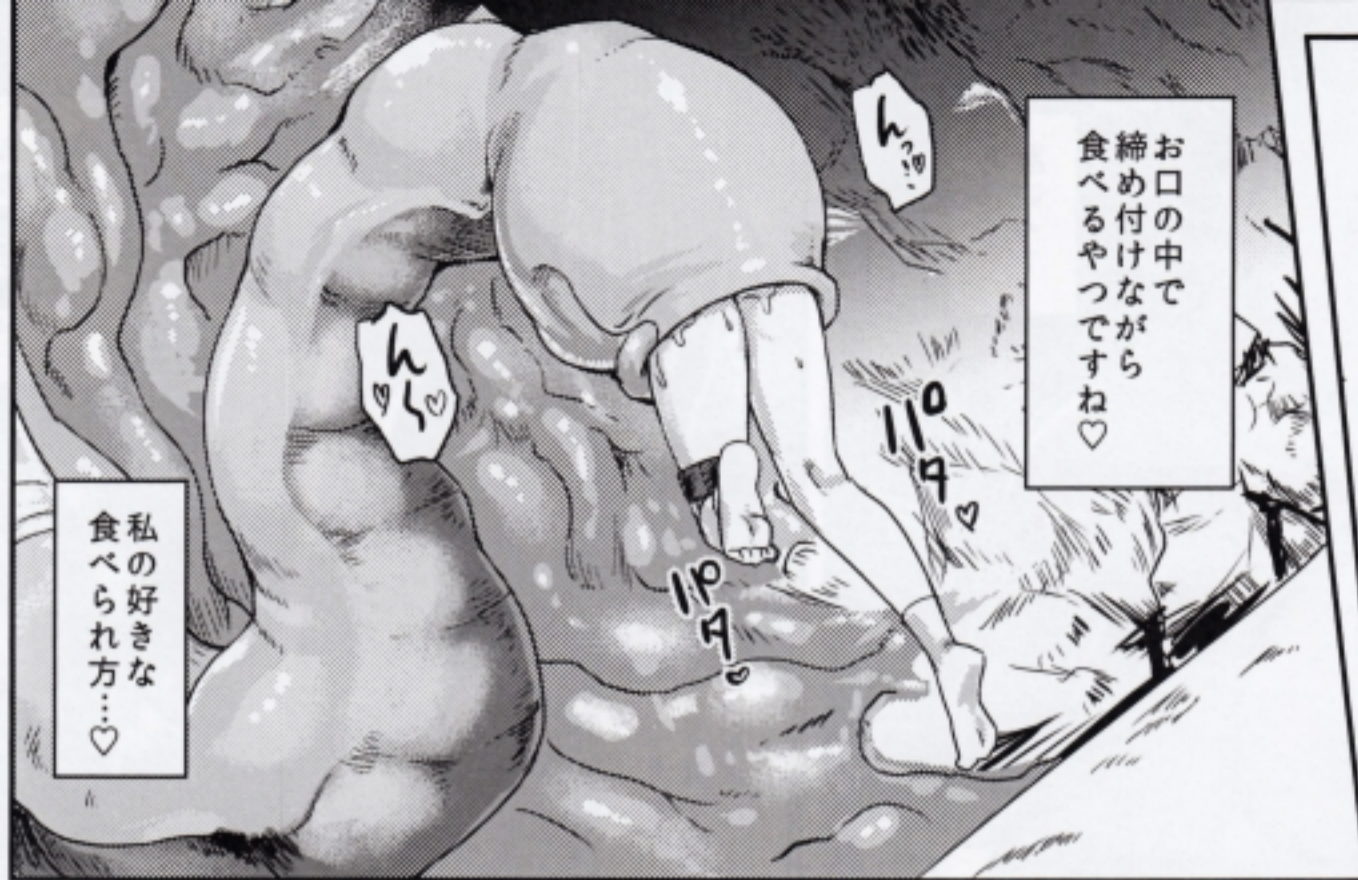
締め付けられて
息もできなくて
凄く苦しかった…



今はそれが
どうしようもなく
気持ちいい…

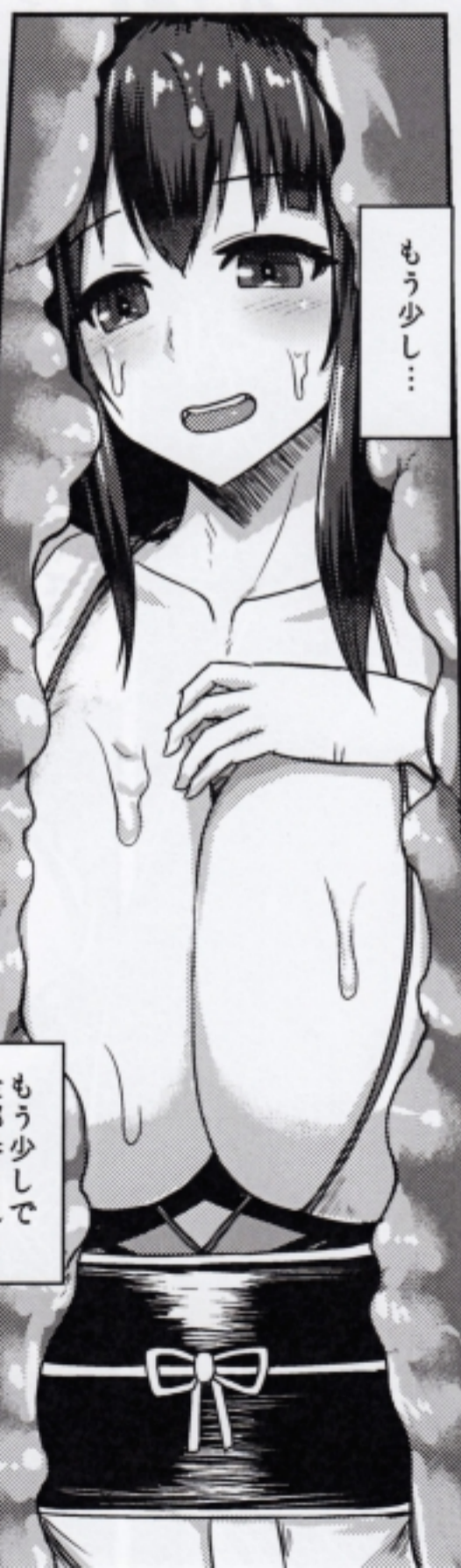


今日は上から
です♥



私の好きな
食べられ方♡

お口の中で
締め付けながら
食べるやつですね♡



ん♡♡

もう少しで
全部吞まれる

ん♡♡



ケ
グ
ッ

ああ…
凄…

モ
モ
モ

ん
ん
ん

ズ
ズ
ズ

きもちいい…

全身が溶けて
いくみたい…

ん
ん
ん

グ
グ
グ



あの逃げ場が
ない状況が
堪らない…

ト
ト
ト

考えただけで
全身がうずいて
しまう…

ロ
ロ
ロ



…ヒダヒダが
纏わりついてきて
気持ちいい…

ヌ
ル
ヌ
ル

ジ
ユ
ル



早く私の身体の中も
めちやくちやに
味わってほしいな...

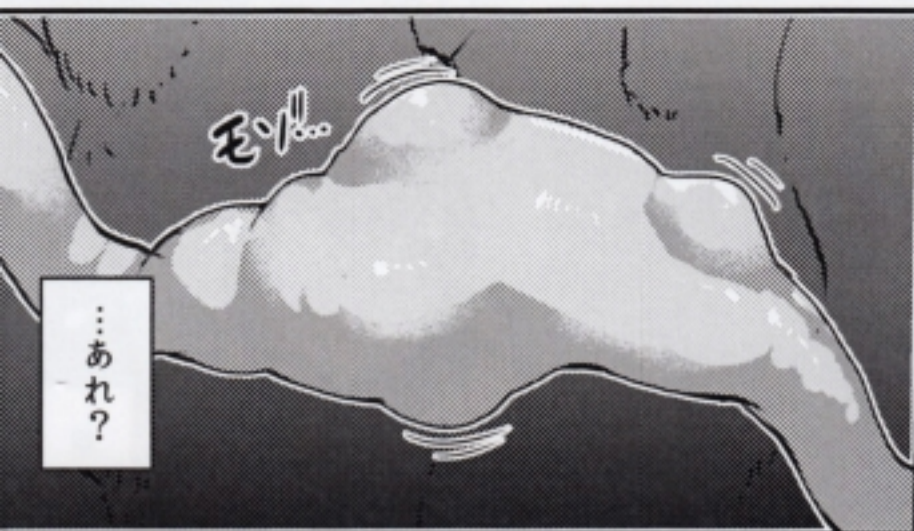
早く...

キュン♡

なんだか
いつもより
ゆっくりな気が...

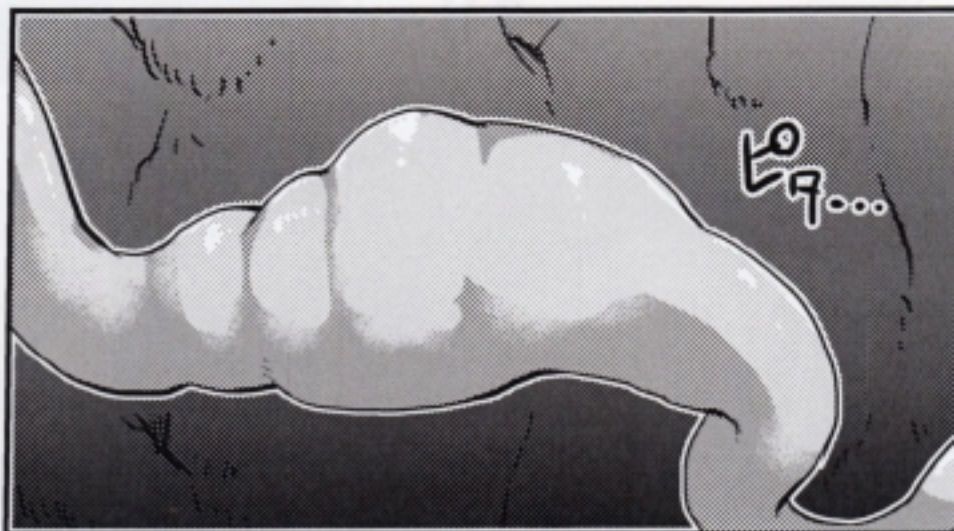
焦らしてるのかな...?

このままだと
窒息しちゃうしそう♡



モッ...

...あれ？

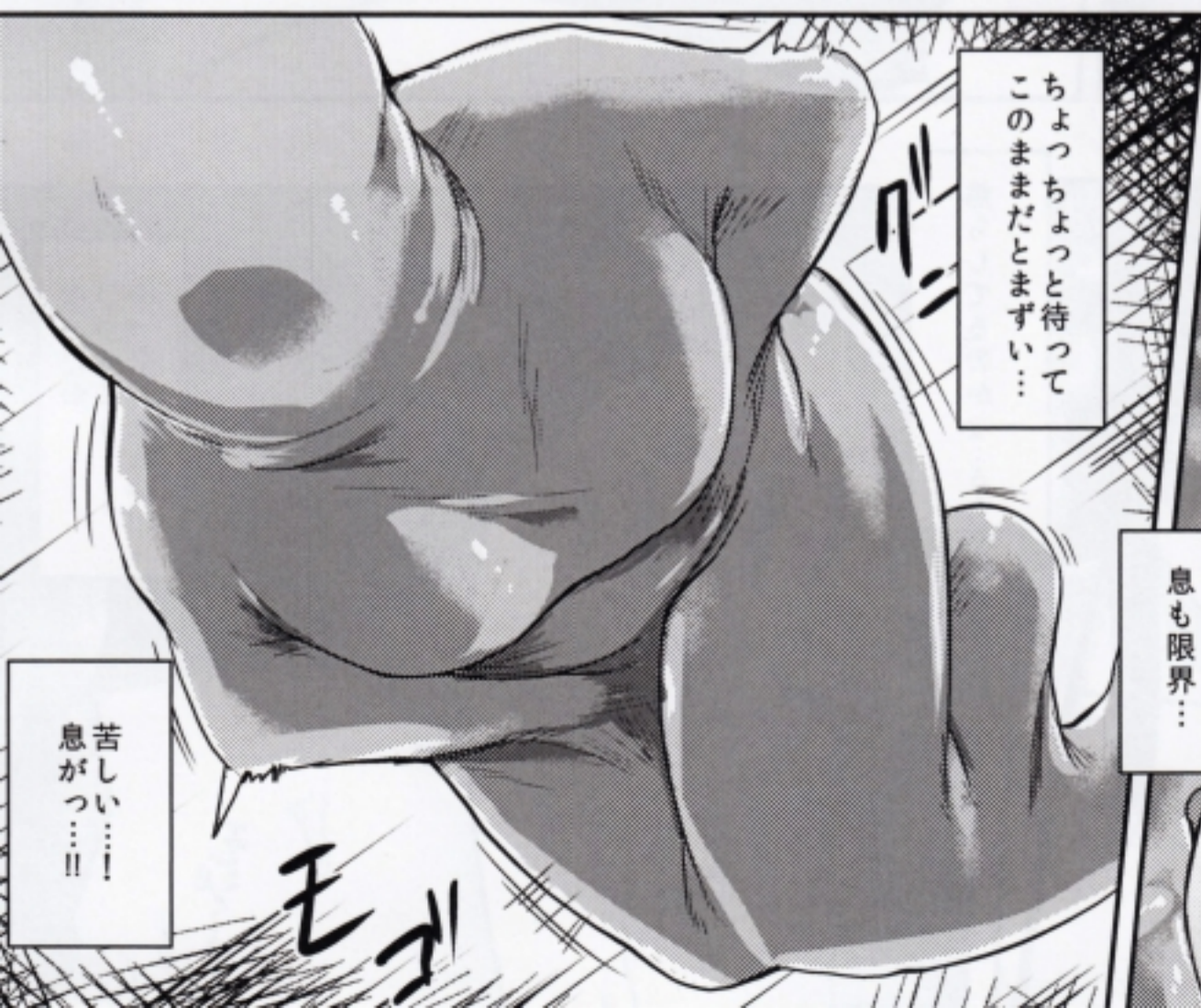


ピク...



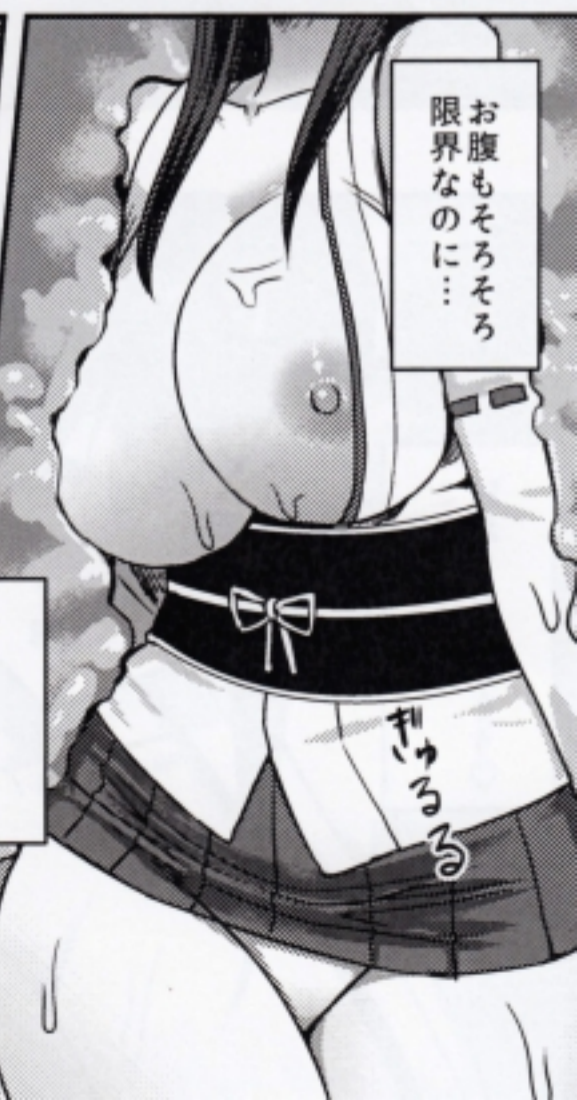
え...？

止まった...？



ちよっちよっと待って
このままだとまずい...

息も限界...



お腹もそろそろ
限界なのに...

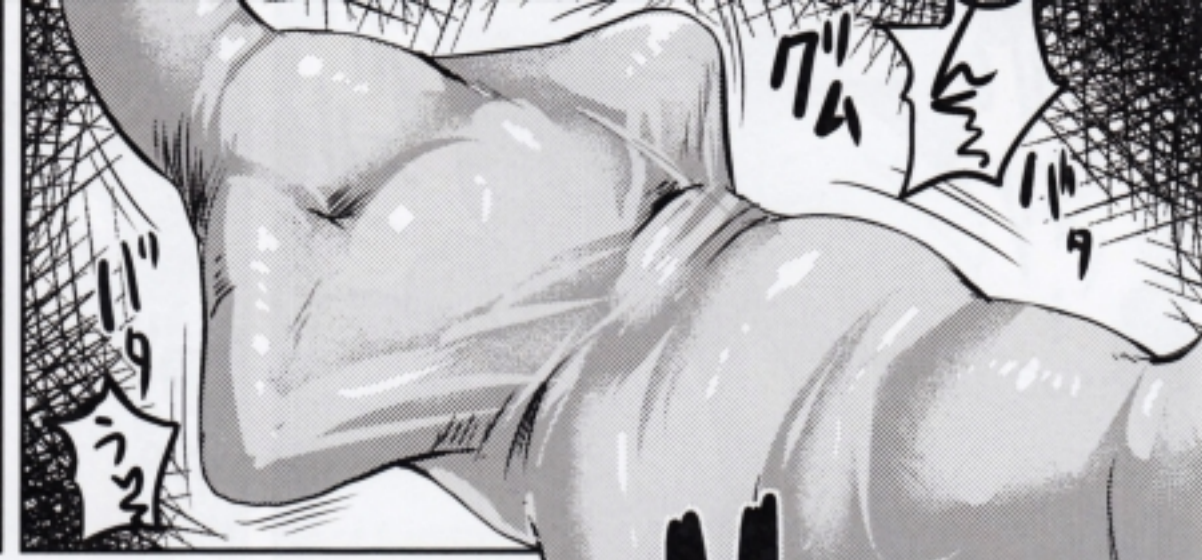
揺るるる

苦しい...!!
息が...!!

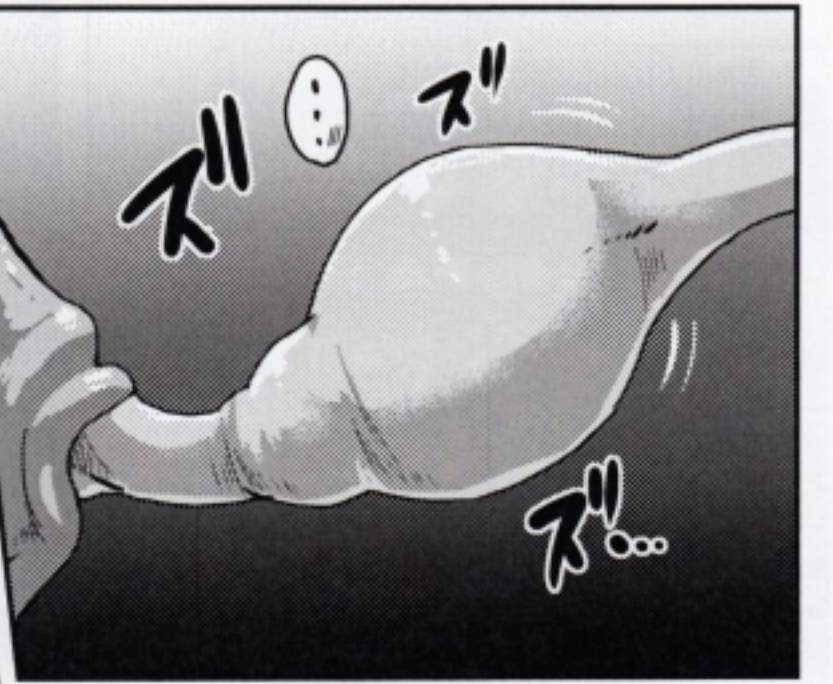
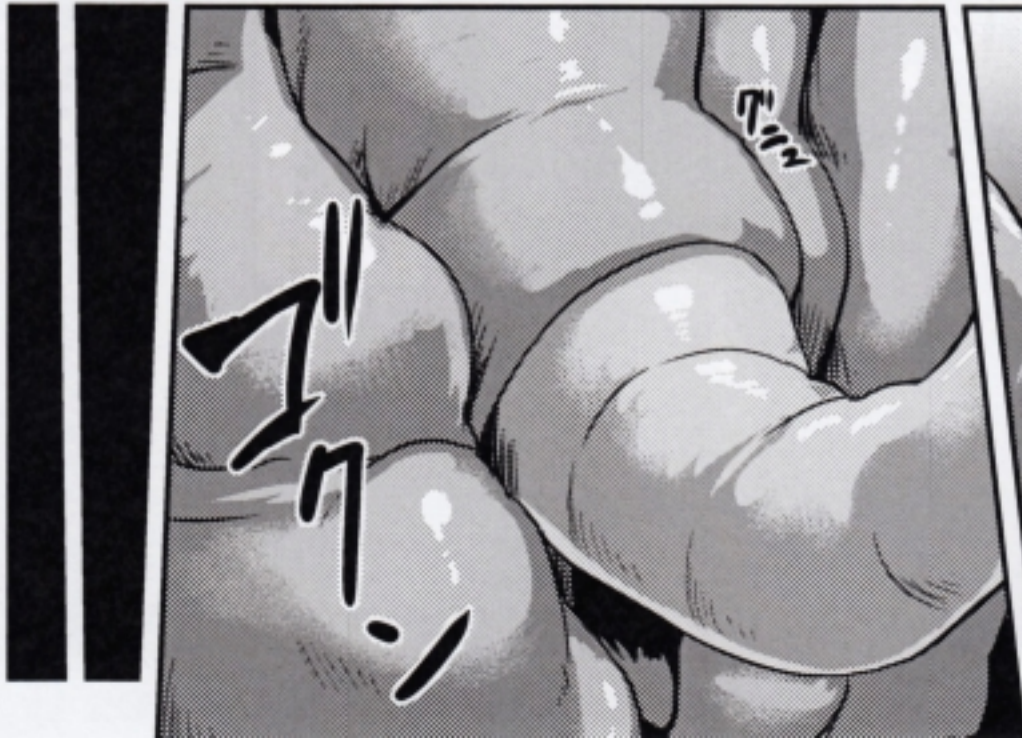
モッ



ひどい
こんなの...!!
こんな...!!



気持ちよく
なっちゃう...!!

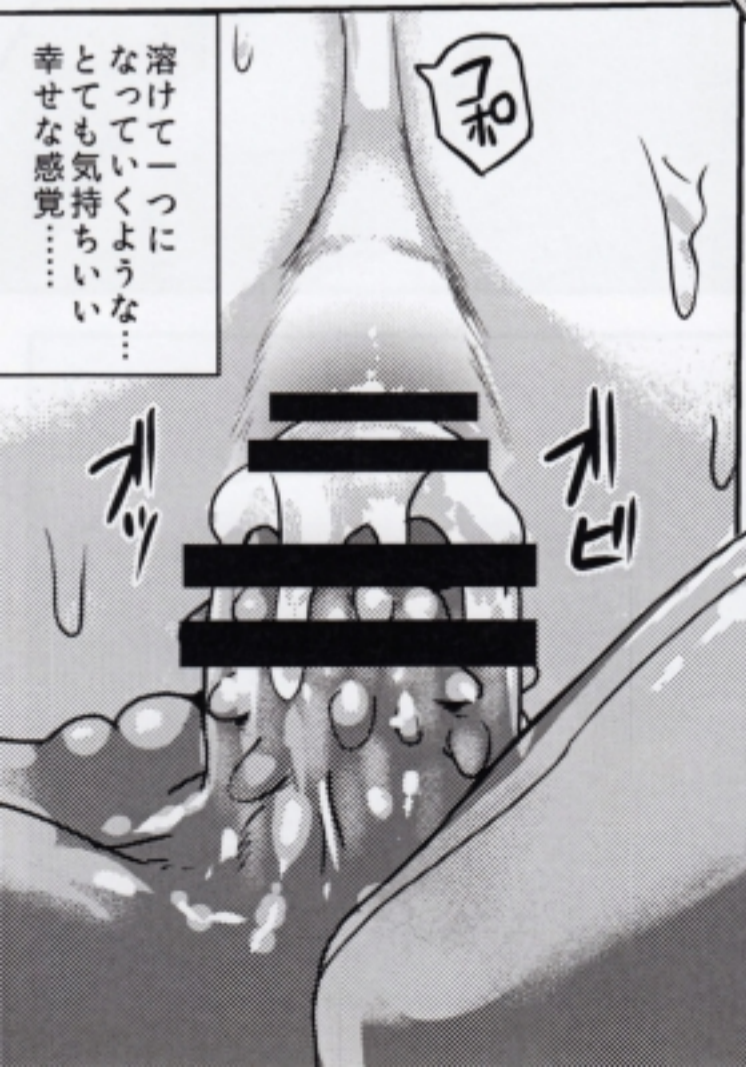




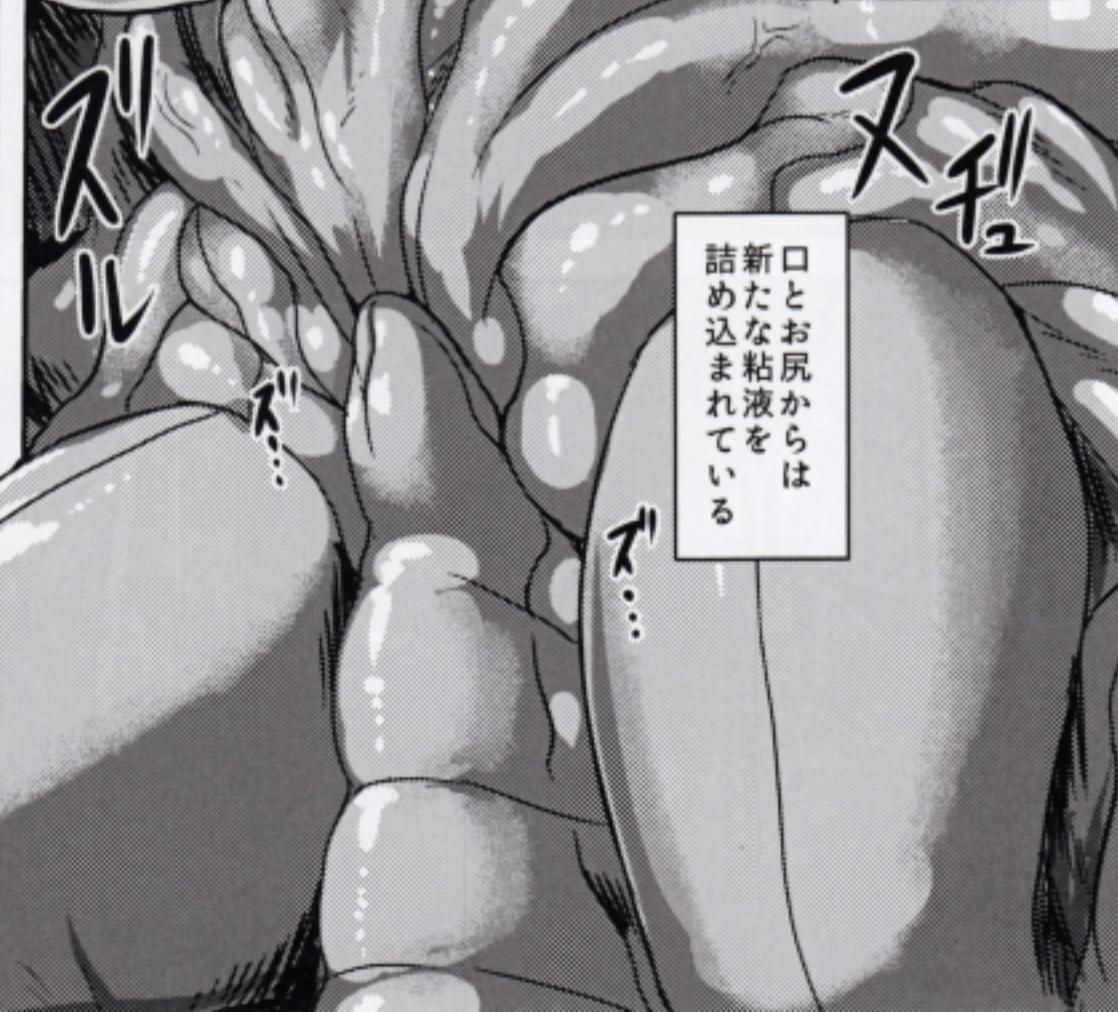
この粘液を飲む
たびに内側から
とろけるような
感覚に襲われる



どれ位時間が
経ったのか…
お腹の中が空っぽに
なった後も私は全身を
責められ続けた



溶けて一つに
なっていくような
とても気持ちいい
幸せな感覚……



口とお尻からは
新たな粘液を
詰め込まれている

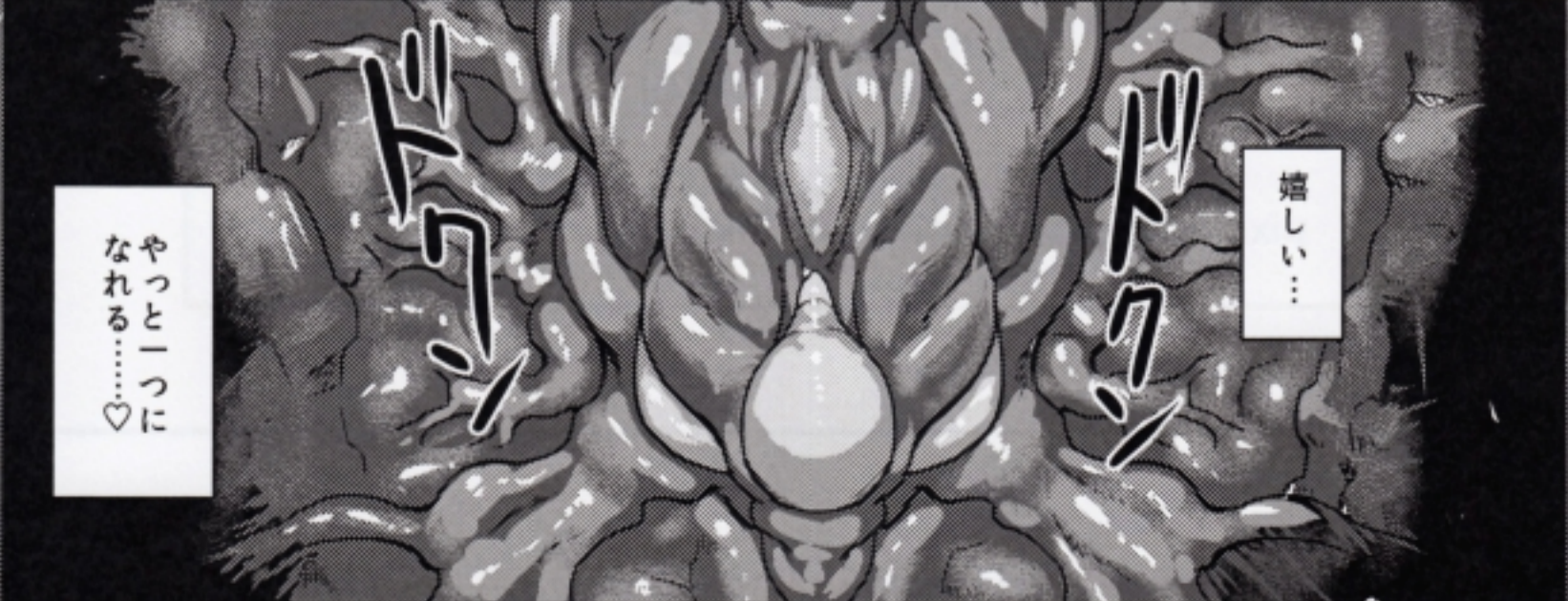


そうか…
最後は私自身
なんですね…

私で…
いいんですね…

ちゅん♡
ちゅん♡
ちゅん♡

ん♡
ん♡
ん♡



嬉しい…

やっと一つに
なれる…♡

—あとかき—

初めましてお久しぶりです。
いしむらです。
この度は艦呑ミ「ふ」をお手に取って頂き
ありがとうございます。
今回はお気に入りの艦むすで吞んでくれオーラが凄い
扶桑さんを描きました。不幸属性大好きです。
あといつもより少し多めに丸呑みを入れてみました。
和姦丸呑みもチャレンジしてみたりで
ひたすら楽しかったです。

次回はアナルオンリーな本を描いてみたかったり、
蛹化とかも描いてみたかったり描きたいものが多くて
困ってます。生体ユニットも描いてみたいなと思ってみたり。

それではここまで読んで頂きありがとうございました。
また次回の本も手に取って頂けたら嬉しいです。
失礼しますッ

—奥付—

サークル名:石村屋
発行者:いしむら
印刷所:(株)ポプルス 様
発行日:8月16日

連絡先:isimurayasan@yahoo.co.jp
pixiv:<http://www.pixiv.net/member.php?id=1276620>



石村屋